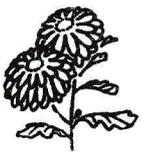


全国吟道大会秋に開催



会場の川崎教育文化会館の改修工事で十月開催となったため、地方から参加の会員には年間予定を繰り合わせて今年の特色は、宗家が平成十二年から一年七か月かけて横浜から北九州まで千三百里を踏破した吟行記「先生歩いてきました」の前半京都までが構成吟となり出席の会員から好評であったこと。総本部も積極支援の町田支部少年部員が千代田の金子千峰先生に剣舞の指導を受けて吟と舞いで登壇したことが、そしてこれも金子先生の指導をうけている千代田の剣舞研修部員全員が舞いを披露したことだ。一方、岩崎先生の厳しい指導を受け、挑戦した男子チームは素晴らしい出来であったが、今回も女性の厚い壁を破れず惜しくも四位であった。

総本部お膝元の会の一つである千代田は百五〇名を越える参加で全員合吟では唯一男女別に登壇した。また大会を支える裏方として受付を担当。また大会はご挨拶のなかで「裏方として登壇もせず、舞台もろくに見られず頑張っている皆さんのお陰で立派に進められます」と感謝を述べられた。

全国吟道大会構成吟へ初出場

剣詩舞担当リーダー

ハザマ 松尾 洋輔

剣詩舞研修部門は全国大会へ千峰流が出来ました。吟題は宗家先生の著書

より題材をとりました構成吟「東海道吟行記」の中の「小田原攻め」です。秀吉が北条一族の本拠である小田原城を攻め滅ぼす場面でありますが、この吟題をどのようにならば表現するか吟を始める前に、まず金子千峰先生が部員全員の出場を基本とした全体の流れの構想を練り、次に各部員の配役を決め、各場面における振り付けをしていきましました。配役は秀吉に小林君（小学二年生）太刀持ちに金子先生、秀吉軍に女子部員七名、北条軍に男子部員四名です。練習では群舞としての統一感を出すことに主眼をおき、評定、合戦、酒宴の各場面での刀、扇、各人の動作を合わせるため試行錯誤を重ねて練習を上げていき、前日のリハーサルでは、広い舞台での踊る位置と流れを確認し合いました。

本番では緊張の中で全員無我夢中で踊りました。安堵感とともに達成感を分かち合いました。

最後になりましたが、今回千代田岳精会の中で誕生し育った当部門がまだ創設三年目にも拘らず晴れの舞台に出場できましたことにつき、磯田本部副幹事長、鈴木会長をはじめ日頃当部門をご支援頂いております。諸先輩へ深く感謝してお礼申し上げます。

全国吟道大会に参加して

ハザマ 横山 裕子

今回初めて全国吟道大会に参加させ

て頂きました。参加に当たって剣詩舞は大変に不安でした。終わってみればまずまずの出来栄ではなかったかと安堵しました。大勢で参加させて頂き有難うございました。これも一重に先生、諸先輩のご指導の賜物と思ひ感謝しております。

町田支部少年剣舞（幼稚園より小学生）は金子先生のお手伝いをさせて頂いておりました。今年で三年になりました。月一回の練習を今年で三年になりました。決まっていたのは、月二回練習を重ねてきました。大舞台で最高の演技が出来思わず感激致しました。合吟は丁度子供達に着替えのお手伝いがあり不参加となりました。来年は是非参加したく思います。全国より集まられた会長さん、支部長さん、諸先生方の素晴らしい吟を聴く事が出来、一つ迄も思い出されません。大変有意義な一日を過ごさせて頂きました。

今後ともご指導宜しくお願い致します。有難うございました。

新宿分教場 教場へ昇格

年初から着実に会員の増加を続けてきた新宿分教場が十月一日付けで新宿第二教場へ昇格いたしました。

教室はこれまで通り第三・四金曜日の新宿との合同実施の三回です。火曜日は新宿との合同実施の三回です。火曜日は新宿教場と兼務となります。

新宿第二教場

教場長 酒井 帆風
副教場長 出水田 鶴泉

懇切に指導戴きました。諸先生に對し、
感謝の氣持で一杯であり、名に恥じない
實力をこの奥傳といふ恩に報いるべ
く、吟力の向上は勿論、自己研鑽や後
輩育成に致して進まなければと、思い
を新たに致し、私共の年代は日中戦争、
太平洋戦争の中を過ぎ、更に戦後の
社会動乱の中、誠に凄まじい時代を
潜り抜けて来ました。その間の蓄積を
取り戻すべく、知識と大きな感動の
西の詩を通し、残り少ない余生を今東
り続けたいと念じており、一日を
生と共鳴する今日この頃でありたいと
早く共鳴する今日この頃でありたいと
感して、今日この頃でありたいと、痛

感慨も一人

東陽町 武田 弘風

入会して十五年目を迎えるのは平成七年の春、
伝と肩書きを振り返ると、思い出され、
これ多くなると、これと想い出され、
る多くなると、これと想い出され、
感入会の一歩、か根柢は、定年後の自宅に
か入会の一歩、か根柢は、定年後の自宅に
電話。東陽町赤根柢は、定年後の自宅に
の仲間が、東陽町赤根柢は、定年後の自宅に
て、みないが、東陽町赤根柢は、定年後の自宅に
気持で、練習に、東陽町赤根柢は、定年後の自宅に
ッ、トホム、練習に、東陽町赤根柢は、定年後の自宅に
え、トホム、練習に、東陽町赤根柢は、定年後の自宅に
索して、定年後の生活の柱となつた、その模

まこの入会した次第である。この十五年間、
加減なものが、交流を通じて蓄積する
多くの生活の豊かさを改め、心から感
後の生活の豊かさを改め、心から感
の生活を豊かさを改め、心から感
謝したい。特に、吟を学ぶ前提として、
詠ずる詩歌への理解を深めるため、作
品の内容だけをなく、その詩が作られた
背景まで調べる習慣が、出来たことは誠
に有難く、今後、私の貴重な財産にな
ると思っている。私共、後期高齢者の仲間
を、機会に、後期高齢者の仲間になつたこと
が、これまでの活動の中で得たノウハ
ウを出るだけ提供することでお役に
立てれば、と考へて、その絆を今後
通じて、得た多くの方々の絆を今後
て、しつかりと持ち続けたいと願つ

奥伝審査にあたり

ハザマ 宮澤 修風

私共、現役中、ある会社の吟の会に
入り、一時勉強を始めた頃、折、温
習会が、野公堂で開かれ、折、温
富士電機詩吟部長の肩書きで、家元が二
三度特別賛助出演なされて、いた様に思
われ、ます。私共、後期高齢者の仲間になつたこと
の手術直後、入退院を繰り返して、偶々胃
の時、手術直後、入退院を繰り返して、偶々胃
ザマ、詩吟の会の東陽町教場、今岳精会
ゆう、詩吟の会の東陽町教場、今岳精会
う、詩吟の会の東陽町教場、今岳精会

れて再び詩吟の勉強を始めた次第です。
懐かしい和室。指導の先生は現千代田
岳精会最高顧問の飯田先生（最初の教場長）
で、非常熱心に教えて頂き感謝申し
上、切磨に努め、健康の許す限り尚一
層、切磨に努め、健康の許す限り尚一
て、おひます。この度の審査で園田先生から、ご親
切に、吟じる時は出来る限り教本を見
ないで、吟じる様、暖かい指導を受け
と、然るものと反省、実践して参りたい

奥伝の名に恥じないよう 弘風

日暮里分室長 本多 弘風

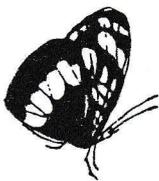
この一月に傘寿を迎えることが出来
ました。この一月に傘寿を迎えることが出来
う、挑戦、入会、それ、想い出が有ります。
の挑戦、入会、それ、想い出が有ります。
以上、昇伝審査を受け、来月、審査の
過なく、昇伝審査を受け、来月、審査の
先生方の優しさや、配慮で、今、この
の奥伝審査に際して、会場であつたこと
を、告げられた時、緊張のあまり、身
を、告げられた時、緊張のあまり、身
固く、告げられた時、緊張のあまり、身
に、告げられた時、緊張のあまり、身
奏の先生が、小い絶句、二度、何と
か、その場に居た時は、恥じな思ひ、
宗家の講評で、上り、が、り、ました、ね、

し節調は正しかったですよ」との恩情
有るお言葉を頂き少し安堵することが
出来ました。
今回の受審で、痛切に感じたことは
岩崎先生が素読百遍と一つ一つの言葉
を大切に大きな声で吟ずることの教
えを確りと身に付けておくことの大切
さでした。
今後、奥伝の名に恥じない様に努力
して参りたいと思います。

奥伝審査を受審して

丸の内第一 岩崎 桂風

詩吟を始め十三年目になり、自分
ながら長く続けられた事は良き指導者、
また吟友に恵まれ練習日が楽しくあっ
た事と思えます。
今回の実技での審査員は宗家先生、
渡辺郷岳作「古寺訪梅」を吟じました。
緊張して、良く吟じられなかったのが
心残りでした。また講評で、奥伝審査
を受けるには紙を見ないで覚えてきな
さいと注意され、日頃の練習不足が反
省させられました。
今後はもっと精進して、吟道に励ん
で行きます。



今思うこと

東陽町副教場長 前田 道風

振り返れば早いもので十五年目を迎
え。入会当時の憧れは諸先輩のよう
に雅号を持ちたいという思いで同期の
仲間と励んだものであった。道泉、道

山、道風というは耳に優しく嬉しいも
のである。
師範への挑戦も思い出される。中伝
準師範を戴いてから師範受審資格を得
るまで研鑽・修業の期間は長かった。
今般奥伝師範の許が与えられることに
なり、その喜びは一入である。先輩、
同輩、仲間には有難く感謝を申し上げる。
師範とは何なのか。今求められ果た
すべきは何なのかをお確認したいと思
う。千代田発展の一翼を担いたいと思
う。

奥伝師範試験を受けて

代々木分室長 山口 朱風

私が入会して早十五年の歳月が過ぎ
ました。去る十一月三日、文化の日師
範及び奥伝以上の審査が実施されまし
て、お陰さまで奥伝師範を頂くことが
出来ました。これも諸先生のご指導の
賜物と深く感謝申し上げます。
当日の、会場では一番前の席で緊張
して家元の力強いご挨拶を伺いました。
九時筆記試験開始、試験官が大勢で落
付きました。午後の面接は横山岳精家元でし
ました。緊張致しましたが先生の暖かいお
人柄に胸を打たれました。吟について
より、家族について今日までの歩み、こ
れからの取組みについて、今迄の指
導場にとっても関心を持っていただき
も多くの人が広めて行きたいと申し上
げました。家元のお心を伺い、大変し
た。入会して初めて家元とお話をす
ることが出来まして本当に最高の一日に

になりました。前澤先生も同席されお優
しく見守って下さいました。
これからは、代々木せせらぎ教場の
発展に力を注いで行きたいと思ってい
ます。諸先生方のご指導宜しくお願い
申し上げます。

心に響く健吟を

東陽町 青木 隆風

お陰さまで健吟十四年、この度栄え
ある岳精流日本吟院の奥伝師範の資格
を頂き、これからは、この名誉を汚さぬよ
う研鑽の糧とし、心に響く健吟を目指
す所存です。また、吟友の輪の発展に
少しなりとも寄与出来るよう努力した
い。ただ、不安が一つ、それはこの四
月に、脳内出血を発病し、即刻入院手
術を受け適切な治療とリハビリで二か
月ほどの那須及び鴨川での静養。そこ
で三か月目に生還出来ました。
四か月目に生還出来ました。
今後は、体調と対話しながら吟を楽
しくお願ひします。また、旅先から帰国
入院に至る迄手厚いご配慮を頂いた吟
友に心から感謝致します。

流統の吟を正しく伝えたい

銀座分室 渋谷 辰風

私は詩吟の道に入ったのが六六歳と
遅かったが、幸い畧々同年輩の飯田、
磯田、岩崎先生から親しく吟を学ぶ事
が出来、更に川口のカルチャーで十二
年に亘って宗家の教えを直接受けて来
た事は、私にとって貴重な貯えである。

これ等の体験を元に更に研鑽を重ね、今後とも千代田岳精会の指導者を支えよう努力したい。そしてその為、機会ある毎に教場、分室などで模範吟となるつもりで詩を吟じ、また時に応じて後輩に適切な指導を行なえるよう心掛けて行くのが、奥伝師範の努めでもあると思う。

奥伝師範審査を受審して
東陽町 八尾 葉風

「思えば遠くへ来たもんだ」武田鉄矢のフオークソングのフレーズ、これが奥伝師範を受審した率直な感想です。去る十一月三日、川崎のサンワークかながわで開催された奥伝以上及び師範審査を全国三九五人の一人としてペーパーテストそして家元の面接を受けました。磯田精信先生のお誘いで、定年後の閑つぶし程度の軽い気持ちで入会しました。が、先生・先輩の皆さんに大変ご迷惑をお掛けしたことを思い出します。迷惑に入会して十五年余、よくぞ奥伝師範にまで辿り着いたものだ、と感慨入です。「石の上にも三年」また「継続は力な

り」と申しますが、今日この場に立つことが出来たのも、失敗に挫けずに辛抱したことと、熱意ある先生方のご指導のお陰と感謝の気持ちで一杯です。

力一杯吟じ晴れ晴れと
東陽町 青木 洋風

平成八年三月、初めて許証三級を頂きました。入会してまだ間もない頃です。唯声を大きく出そうと夢中で越中。私を吟じたことを記憶していません。先生、先輩方という雰囲気です。その中で一杯吟じました。お腹から声を出して今日一杯吟じると、晴々とした力強い気分。満たされ、自身嬉しいことです。方この度の奥伝師範の許証、本当に有難うございます。

準師範を受けて
丸の内女子 板橋 禮山

この度、準師範のお許しを頂きまして。振り返ってみると、詩吟に入会した最初の頃は、只々教室の皆さんについて行くのが精一杯で楽しさを感じて、長く続きました。これは私自身が五十の年もコーラスを続けていたのが、詩吟の声をどうやって出すのか、どうして、もつかめなかつたからです。判って、四年目位から少しづつ楽しさが判ってき

て確りと私の中に詩吟が定着し、ひたすら一生懸命吟じてまいりました。途端、肩に大きな責任がずっしりとしたか、心が呼び起された。改めて「真善美」の心を呼び起さなければならぬ、と確信を持って勉強を続けなければならぬと

中伝準師範を受験して
ハザマ 高橋 湘山

十一月三日「文化の日」に川崎市サッポロホールで「奥伝師範」の他奥伝以上を受験者達が、北は北海道から南は沖繩までも集まり、その数の多さに圧倒されました。岳精流日本吟院の力を肌で感じました。会場長からアドバイスを受けました。緊張もほぐれて来まして、作者名、アクセント、節調について、何気なく眺めていた、何となく思いつく、出来ませんでした。午後からの面接では、指導する立場になるので勉強する様子を、宗家信条「真善美」を基本に、詩吟修得手帳の心得を守り、準師範の名を汚さぬ様、漢詩を良く理解し、吟の心を学び、吟の技を磨き多くの人達に詩吟の良さ、吟の素晴らしさを伝え、流統が益々発展する様、千代田岳精会の

会員として、微力ではありますが精励
努力して行きたいと思ひます。
ご指導宜しく願ひします。

中伝準師範に合格して
神田 内山 壮山

十一月三日「サンワークかながわ」
の会場に九時前に到着、九時半より宗
家先生の説明があり、十時より一時
半筆記試験。昼食を済まして十二時半
より、深浦先生の面接を受け、数分
了。ほっと一息ついて仲間と帰路につ
いた。吟詠することだけが楽しくて、
吾先生の門下生として入会、あつと言
う間の七年間。「山」の雅号を戴き、
つづいてこの度は、準師範の試験を受
けさせて頂く機会を得て、誠に光榮に
思ひます。吟法の基本的なことは、未
だ、断片的な修得しか出来ていません。
しかし、自然の責任や肩書きを与えられ
ます。これから吟道に精進したいと思ひ
ます。ご指導宜しく願ひします。

中伝準師範を受審して
ハザマ 萩原 晴山

昨年「山」の雅号を拝受し、今年
準師範の試験があることは承知して
いた。十一月三日が刻々と迫り、前
日、注意が実施してくれ、事前講習
を許す。注意が実施してくれ、事前
講習を受け

なり。この講習を受けた事で気分が楽に
始まる。講習で徳本リダーの説明通り、
詩の作者を選ぶ問いで、間が明かした
講習を受けて良かったと思つた瞬間か
らスムーズに解答出来ました。その後
の面接は三河の深浦先生でした。今年
の昇任審査を先生から受けた事の感謝
を申し上げ、先生から千代田の岳精会
への取組みに對するお誉めの言葉を頂
き、感激の中に受審を終了した。言葉
よう。今後は、中伝準師範の名に恥じな
いよう精進して行きたいと思つていま
す。



♣ ♠ ♡ ♢ ♣
今年の新しい試み
三グループ別の温習会

A・B・Cグループで実施され、役割
分担して取組んだ。来年度に役立つ
感想がそれぞれ蓄積されたと思ひま
す。温習会の原型

温習会の原型
Aグループ 八田 玉山

新しい会員まで全員が登壇して独吟、
原立の芸能ホール、立派な椅子の本
格

的会場で開催。まず今年の新会員の紹
介と紹介者の顯彰からスタート。
者、同伴など、和やか、千代田幹部の皆
長、正副教場長、千代田幹部の皆
今年習った吟や得意の持ち吟をそ
れ、氣持よく壇上で吟じた。披露し、
金子千峰先生指導の成果を華麗に披露
千代田のみならず、岳精流でも存在感
を見せてくれたと思う。

神田、ハザマ、鎌水、鎌ヶ谷四教場
による温習会を終えて
神田副教場長 村井 蓉風

初めA・B・Cグループに別れた温習
会が行なわれた。私たちがCグループ
です。十一月一日の暖かい日、サ
ンパール荒川の小ホールで行なわれ
した。ハザマ城戸、鎌水菅原教場長を先頭
に他の正副教場長の方々と吟の順番、
プログラムも話合いました。役割分
担等、何回も話し合いました。正方形の
会場は披露宴の出来る所、正方形の
テーブルは八席、来賓の方々とそれ
の教場の吟者八〇名余り、伴奏の
した。その花を添えて、下さったのは
剣舞の方々、狭い舞台一杯を使った
て下さいました。懇親会は、その場
の各テーブルに飲物、食事が運ばれ、
波踊り、歌あり、又、舞の方々のうち
わり、コンパクト。他、会場の方々と仲
温習会でした。

「組織の輪」いきいきプロジェクト
一 一 拠点を開設

四月の鎌倉に続き、次の二分室が開
 設されました。
 ◎ハザマ教場松戸分室
 九月十一日 開設
 二宮祥山分室長、中内博泉副分室長
 会場 松戸市民会館（松戸市松戸）
 JR松戸駅東口から徒歩5分
 JRC常磐線沿線では初の拠点です。原
 則として金曜日の十七時～十九時。会
 の状況で月三～四回の予定です。近
 在の吟友の旧友紹介も多く、既に三
 の新会員が二宮分室長の指導を受けて
 います。十一月廿七日には横山宗家も
 お祝いに来てくださり、鈴木会長他
 の幹部、隣の鎌ヶ谷教場からは全員、
 応援の吟友三〇余名で賑やかに開設を
 祝いました。

◎東陽町教場調布分室

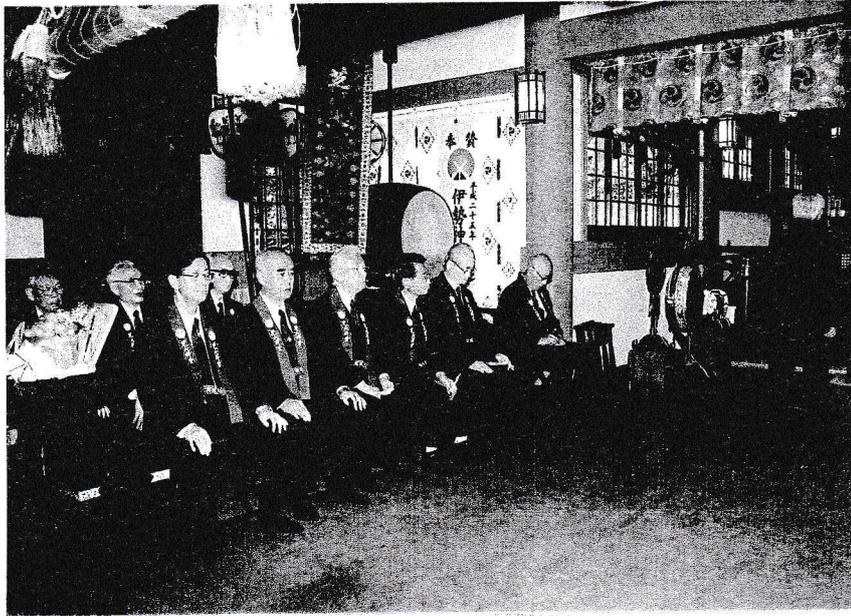
十月一日 開設
 荒井さい子分室長
 場 調布市文化会館たづくり
 京王線調布駅南口より徒歩5分
 念願の調布への拠点進出で京王線沿
 線初の拠点です。当面は菊地教場長が
 運営をバックアップして軌道乗せを図
 りますが、お膝元である磯田常任顧問
 のご縁から三名の新会員が入会となり
 ました。指導にも携わるなど、全面的
 にご支援を頂いています。

◎新年度、千代田は十一教場、十分室
 廿一拠点としてスタートを切りました。

『教場たより』

芝大神宮秋季大祭奉納吟
 清水 星野 久風

清水教場は毎週月曜日を練習日に当
 て、各二時間吟詠を続けているが、月
 二回は会場に芝大神宮参集殿をお借り
 している。その縁から新年の初吟や秋
 季大祭には拜殿で奉納吟を全員で献じ
 ている。
 芝明神の大祭は日本一長い祭りとし



て巷間「だら祭」とも言われてい
 るが、今年には本祭で九月十一日から廿
 一日まで催行された。奉納吟は十五日
 正午からで、鈴木会長の出席もいただ
 き、拜殿に一同集合し宮司の祝詞奏上、
 修祓、教場代表玉串奉奠のあと一人づ
 つ前面に出て吟じた。
 吟題は李白、蘇軾、王維、杜牧、
 西行などの絶句と共に今年度奥伝の指
 定吟「帰雁」（杜甫）や皆伝の指定吟
 「禪搗の歌」（松口月城）などもあつ
 た。鈴木会長も締め「菊花」（白居易
 易）を朗々と詠じられた。
 拜殿前には椅子が置かれ、数人が座
 って聞いていくれた。当日は三時か
 ら社号石碑竣工除幕式が行なわれ、一
 同揃って列席した。

◆廿一年度研修担当の活動

□詩歌研修担当（渋谷辰風リーダー）
 昨年日本史を人類の発生から、列
 島への渡来に始まり、戦国時代まで進
 み今年江戸以降となり、会員が
 順番に講師をつとめ、毎回二〇名を越
 える参加者があります。
 □剣詩舞研修担当（松尾洋輔リーダー）
 全国吟道大会出場報告を参照下さい。
 □演奏研修担当（荻裕風リーダー）
 教場に二名以上の伴奏者の育成は、
 着実な成果として温習会の伴奏にも見
 られますが、受講者の経験のギャップ
 がありません。受講者の経験のギャップ
 があり、発表の場が減ったことが今後
 の課題として残り、今年は今後
 （研修担当の活動は千代田の枠にとど
 まらず、どなたでも歓迎しています）

『新会員紹介』

◇丸の内第二教場
古江孝生氏（九月入会）

で、永長隆徳氏の高校同級生、同期会の合吟「兵児の謡」を聞き、森田氏のリ勧められて入会されました。小節の利いた声で今後は楽しみます。小節

本田一氏（十月入会）

長勤の会です。専門学校の教師を長く勤められ、教室で鍛えた良響を開かれた喜寿同窓会で、十月に故郷の郷里の偉人西郷南州の「偶感」を合吟で披露されました。

◇東陽町教場（調布分室）
堺健氏（十一月入会）

動機は磯田先生より妻の方に入会のお誘いがあり、それが縁となりま

木村喜久江さん（十一月入会）
調布吟詠クラブ開設式典に磯田先

生よりお誘いを受けて参加させて頂

◇伊藤環さん（十月入会）

皆様の熱心さに一生懸命ついてい

◇岩瀬徹氏（十月入会）

松戸分室
修氏に勧められ入会を決しました。

佐藤八郎氏（十二月入会）
高橋鎌倉分室長の大学の後

輩。お住まいに近い松戸分室の開設

◇安齋鎌倉教場
鎌倉喜江さん（十一月入会）

で、七月に教場に鈴木高風先生の紹介

編集後記



松戸、年度、開設された三分室、鎌倉、